唐組・第73回公演

泥人魚

歩いてる　ヒトか魚か
分らぬ女が……

【物語】

埋め立てに行かず、ただ一人町を去った漁師・螢一が、消えた親友・二郎のかつての師、詩人・伊藤静雄の営むブリキ加工店。残る約束の半分を悔やむ眼（ガン）に代わって、どうにか決着をつけようとしていた。そして、やすみもまた、眼（ガン）のため、残りの約束を果たすべくその店を訪れるのだった。

諌早湾の記憶宿る義眼が導かれる闇の行方を知らないままに、二人が遂げる二郎との再会。「人か魚か分らぬ女だ、そのウロコをはがさぬ限り、その女は人には戻らぬ」そう記したメモと共に、残された〝泥の約束〟の先に二郎が見つめる一点は、海で拾われ、人魚と呼ばれ名を捨てた少女が、ウロコの奥に封じた過去の鍵……。

―見えるよ、この眼（ガン）には……今、腰の辺りで光ったお前の鱗一枚が――

義眼と肉眼の間に映った一片の、はがされた傷跡の上、帰る海をなくした人魚に朽ちない鱗が舞い降りる。

「諌早湾はどうでしょう」　久保井　研

その年の夏、取材旅行から戻った座長は今までになく落胆した素振りだった。二〇〇二年のことだ。春秋と紅テントを担いで芝居を打つ合間、何か戯曲のネタになるモノはないかとふらりと旅に出る。戻ってくると土産品を肴に一杯始まる。その地で出会った人、起きたエピソード、見つけた珍妙奇妙な品々。そんな道中を面白可笑しく話をする。我々は話の面白さに引き込まれながら、これそれがどんな筋立て、台詞へと置きかえられていくのか、めいめいが想像し脱稿を待つ。それはとても楽しい時間であった。

「スカだった。何もない、空振りだった」座長はそう言った。その年は日本海に面する漁港町へと出かけていった。港では皆、一様に無口だったという。終ったことをむし返されたくない、自分の今の立場からでは何も言えないと、とりつく島もなかったそうだ。思うに「原発」というデリケートな問題もあったのだろう。その地で生きる者たちの暮しぶりを覗き見し、目の当たりにした事柄から妄想の渦をかき立てる。そんな唐十郎の作劇を起爆する装置がなかったのだ。話を聞きながら〝側〟の問題に行き当った。対立には〝側〟が存在する。どちらに付くか、どちらに付くといいのか。損得勘定が付きまとう。個人の主義主張は様々だ。まして国なんてバケモノを相手に対立すればオマンマ喰いあげになる。長い物に巻かれる様に商売がえをせまられる。そんな狭間でゆれ動く人間模様を書きたかったのだろう。

そんな会話もひと息ついたころ、「またどこか探しに行くよ」座長は笑って冷たいグラスをまぶたの上に押し当てた。思わず我々劇団員はこう言った。「諌早湾はどうでしょう？」一九九七年、有明海諌早湾は外海から閉ざされた。干拓地を造成し、高潮などの水害を防ぐ目的の潮受堤防。最後の閉門は全長七キロに及ぶ鉄板が続々と落されていくショッキングな映像とともに報じられた。有明海の干潮満潮の潮差は五メートル。国内最大だ。紅テントもすっぽりと沈む。七キロ先へと続く遠浅の干潟には固有種も多く、ご存じムツゴロウやエイリアンのごときワラスボなどのハゼ類、有明のりや寿司屋で平貝と呼ばれるタイラギなど豊富な水揚げがあった。しかし閉門以後、それらは大きく減少した。国を相手に開門を要求する漁業関係者、開門により農地への塩害を危惧する営農者。両者の対立は最高裁へともつれ込み、昨年三月、開門しないことで判決が確定した。

空振りに終った取材旅行から半月後。秋公演の稽古も始まりしばらく経ったある日、座長は諌早に向かった。そしてたくさんの土産話とヘドロまみれのタイラギの貝殻を一枚持って帰京した。

作＝唐十郎
演出＝久保井研＋唐十郎

【役者陣】

久保井研

稲荷卓央

藤井由紀

福原由加里

加藤野奈

大鶴美仁音

重村大介

升田愛

藤森宗

西間木美希

岩田陽彦

金子望乃

壷阪麻里子

髙橋直樹

舟山海斗／丹羽駿介

福本雄樹

友寄有司

荒谷清水

内藤裕敬
（神戸・岡山・長野、5/5、6の花園神社公演に出演決定）

【登場人物】

浦上螢一……海の町を去って、今は都会の隅にあるブリキ加工店で暮らす
伊藤静雄……まだら呆けの詩人で、ブリキ店の店主
腰田……静雄の町の女性ヘルパー
肩田……その同僚
立ち食いそば屋の主人……ウドンの絆をうらみ、目を光らす
待子……そのそば屋の女店員で、静雄のつくる詩を待つ
踏屋（夜）……調査専門ブローカー。人の隠す影を踏む
ガニ……ガニ股の踏屋の部下
しらない二郎……詩人静雄の元弟子。長崎の「しゃっぱ漁港」では螢一とも共に働いた。その前は、踏屋と仕事を取合う前歴あり
やすみ……しゃっぱ漁港から螢一をさがして上京してきた娘。少女時代、ガンさんという漁師に、海で助けられ、そこの養女となる。海に漂う前は、椿という名でもあった
月影小夜子……月の裏側を熟知していると、のたまわる女性。しらない二郎を長崎に使いに行かした……。とある会社の秘書室長
天ちゃん……螢一の友。ガンさんの下で働き、鯉のぼり店を転々としながら上京。「海の狼」とも呼ばれていた
草ちゃん……陸の労働で、今はガンさんを支える
魚主（うおにし）……体調をくずしたガンさんに従い、世話をする
ガニの部下一……暗さに乗じる闇夜船（やみよぶね）の船長。酒乱で、やすみの少女時代、椿とも関わりあり
二……ブリキの板を運ぶ
三……運びながら〈ヘイ、コーラ〉をうたう
ガンさん……板を頭でボンビングする
……義眼の海の漁師

[スタッフ]
絵＝合田佐和子
作曲＝安保由夫
宣伝美術＝海野温子
舞台美術＝大鶴美仁音＋紅美術団子
照明＝重村大介
音響＝福原由加里
衣装＝加藤野奈
舞台監督＝藤森宗

[協力]
南河内万歳一座
有限会社マッシュ
株式会社half pint
東映マネージメント
（株）千代田組
濱ノ上元子

（株）千代田組アパレルブランド AiKD より販売！

座布団
1,210円（税込）

今回のポスターの絵をTシャツにしました
合田佐和子さん絵Tシャツ（白）
3,500円（税込）

ご購入は公演当日受付にて!!

IAC Group IACグループ
iAC INTER ART COMMITTEES
株式会社インター・アート・コミッティーズ
自動車教習所運営・エージェント事業（旅行代理店業）
（株）IACドライビングスクール
（株）ファーストビジョン
（株）小梅
（株）コンパスキャリア
人材紹介・派遣事業
エンタテインメント事業（音楽関連）
フードサービス事業（レストラン・給食）
https://www.interart.co.jp

株式会社
コンパス
映像制作承ります。
（企業VTR、舞台映像など）
http://www.compass-co.net